

日本共産党国会議員団千葉事務所 ☎043-241-4251
千葉県議 丸山 慎一 ☎047-424-6347
<市議団控室☎047-436-3030 FAX047-420-7201>
船橋市議 岩井 友子 ☎047-438-8647
金沢 和子 ☎047-422-5278
かなみつ理恵 ☎047-473-0678(事務所)
神子そよ子 ☎047-440-7950(事務所)
松崎 さち ☎047-432-9317
▲市議団 ホームページ



新湾岸プロジェクトが実施した第2回コミュニケーション活動

推進へ誘導する「新湾岸道路ありき」のアンケート

「新しい湾岸道路」(第2湾岸道路)を推進する「新湾岸道路プロジェクト」が、第2回目となる「コミュニケーション活動」を実施しました。

「コミュニケーション活動」とは、新湾岸道路の計画段階で、地域住民や関係者との意見交換を目的とした活動とされています。主な内容は、特設ホームページでの情報提供や、オープンハウス(パネル展併用)の開催、アンケートの実施で、計画の具体化を進めます。この活動の運営主体は、国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所、千葉県土整備部道路計画課と、千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市となつています。

岸道路について、高架構造案、地下構造案、現道拡幅案のほかに、「対策をしない案」が示されました。「対策をしない案」とは、「新湾岸道路はつくない」という案ではなく、「現状のまま、まったく何もしないという案」で、カッコ付きで、ベースラインと表記されています。

第1回目のアンケートでは、新湾岸道路は必要ないけれども、「渋滞は解消してほしい」「防災対策は必要」などの意見も寄せられており、2回目のアンケートで、「新湾岸道路はつくないけれど対策はする」という項目を設けるなど、市民の意見を考慮するのが当然です。

ところが、こうした意見は全く考慮されず、新湾岸道路をつくる以外

には、なにも対策をしない案として、項目が設けられました。そのため、アンケート項目だけに答えていくと、自動的に望ましいルートを記載することになりかねない内容です。運営主体側が「新湾岸道路ありき」で進めるために、市民を誘導するなど許されません。事業の正当性が改めて問われています。

日本共産党船橋市議団主催
無料 法律相談
10月16日(木)
11月12日(水)
12月16日(火)
弁護士が相談を受けます 労働相談も受けています
会場：中央公民館
※12月16日(火)は勤労市民センターとなります
時間：午後1時～4時
要予約 ☎047-436-3030

生活困窮者のエアコン設置費に助成を

猛暑の中、政府は熱中症予防のためエアコンの使用を呼びかけましたが、経済的にエアコンを設置できない市民がいます。一方で、東京都は高齢者や障害者のエアコン購入支援を始めるなど、自治体の独自支援が広がっています。

日本共産党は9月議会で、

船橋市としてもエアコン設置の支援を実施するよう求めました。福祉サービス部長から「他市の事例を調べている。物価高騰と異常な暑さが続く昨今の状況の中、どのような生活困窮者支援が必要であるか、引き続き検討する」との

答弁がありました。来夏に間

に合う実施が求められます。

エアコン購入費を認められない生活保護受給者対策

また、国の制度基準によって生活保護受給者の中に、エアコン購入費が認められない世帯があり、そのためエアコン未設置の生活保護世帯が約150世帯(全保護世帯の2%)ほどにも

上ります。高温の居室で生活せざるを得ない受給者への対策は

待ったなしであり、市の対応を求めました。市からは「明らかに居住に堪えないなど、総合的に判断した場合は転居支援ができる」との答弁がありました。

猛暑が続く中、命に関わるエアコン設置について、船橋市の積極的な支援を強く求めます。

雑魚寝の避難所に
間仕切りの整備求める

避難所での性被害が、阪神淡路大震災などの災害において続いています。

能登半島地震で学校の体育館

に設置された避難所では、長期間の雑魚寝が続き、女性たちが見知らぬ男性と隣り合わせで寝なければなりません。段

ボールの間仕切りができたのは、発災後3週間たつてからでした。雑魚寝しなくて済む対策が必要です。

船橋市は避難所の安全確保のための防犯ブザーを購入しましたが、雑魚寝を防ぐための間仕切りの確保を求めたところ、市

防災対策に女性の視点を

長公室長からは「避難所に紙管パーティションやワンタッチパーティションを備蓄している。不足したら国等や、協定締結先の企業から調達する想定で、早期に調達できるよう協議したい」との答弁がありました。

しかし備蓄の紙管パーティ

ションは30区画分、ワンタッチパーティションは3組しかありません。市の想定でも各避難所平均550人ほどを受け入れることになっており、このままでは雑魚寝の避難所となってしまいます。早急な整備を求めます。また、女性の視点で船橋市の防災対策を検討するプロジェクトチームの設置も提案しました。